**●当事者の声と知名度の向上**

・数値化しにくい福祉などの分野でこそ、当事者の生の声を丁寧に拾い上げてほしい。

・自身の経験から、町外ではまだ安平町の知名度が低い、あるいは「地震のあった町」という認識で止まっていると感じる。特産品のブランド化などを通じ、知名度をさらに上げてほしい。

**●一貫した教育体制の継続**

・認定こども園から早来学園（義務教育学校）まで、公立で一貫した教育を受けられる環境は全国的にも稀有な強み。これを継続し、子育て世代を惹きつけ続けたい。

・福祉サービスが真に必要としている人に届いているか、当事者の意向を反映できる仕組み作りを大切にしてほしい。

・安平町の知名度をあげるような事業の工夫が必要。

**●伝統と定住のバランス**

・教育において新しい手法を取り入れようとするのは良いが、低学年での宿題の徹底など、昔ながらの取り組みや規律も大切にしてほしい。

・子どもたちが町外へ出ていくことで、各種コミュニティの減退が進むことに危機感がある。お年寄りまですべてを大切にし、子どもたちがこの町に住み続けたい、帰ってきたいと思える環境作りが、地域のコミュニティ維持には不可欠である。

**●ほどよい田舎の維持**

・安平町の「ほどよい田舎」という、ごみごみし過ぎていない、自然豊かな環境に魅力を感じて移住した。人口は増えてほしいが、巨大な商業施設ができるような過度な都会化は望まない。車で少し走れば利便性は確保できるため、この町らしい素朴さと自然を失わないでほしい。

・子どもを通した大人たちのコミュニティも生まれているので、今後の定住につながると考える。

・教育は強みであると思う。追分地区はこの先より活発になっていくと思うので推進してほしい。

**●郷土愛を育む教育**

・子育てが終わった８年後を見据える必要がある。進学や就職で一度町を出た子どもたちが、いつか「帰ってきたい」と思えるような、心の拠り所としての故郷でありたい。

・どんな子どもでも伸び伸びと育つ、懐の深い教育環境こそが安平町にはふさわしい。

**●大人が楽しむ姿を見せる**

・役場に「何かをしてもらう」のを待つのではなく、町民自らが積極的に活動に参加してほしい。

・大人が楽しく暮らし、生き生きと活動している姿をロールモデルとして子どもに見せることが、最大の教育環境になる。これからも役場と町民が共に汗を流すイベントや交流を大切にしたい。

**●教育ブランドの徹底と高齢者への配慮**

・知名度を上げ、人を呼び込むためには「教育、子育て」に特化して突き抜けるべきである。

・誰もがいずれ年齢を重ねる。特化した強みを創る一方で、高齢になっても安心して住み続けられる環境を整えることを決して忘れないでほしい。

## 今後の予定

「町民まちづくり会議」と庁内で議論を進めているSWOT（スウォット）分析についてご報告する予定です。

**【第３次総合計画のページができました】**

現在策定中の第３次総合計画に関する情報を町公式ホームページにまとめました。随時更新していきますのでご覧ください。「町民まちづくり会議」の詳細についても掲載しています。

**【総合計画に関するご意見】**

随時、受け付けています。インターネットからも受け付けていますので、ぜひご活用ください。右記二次元バーコードからもアクセスできます。

インターネット受付先：https://www.harp.lg.jp/kyFPjdtc　FAX送付先：FAX㉒2026

郵送先：〒059-1595　安平町早来大町95番地　安平町役場政策推進課　宛

**総合計画に関する問合せ**　政策推進課政策推進グループ　☎㉒2751